

派遣審判報告

1. 報告者 栗田 賢吾（平塚）
2. 大会名 令和3年度 全国中学校バスケットボール大会
3. 大会期間 令和3年8月19日（木）～8月21日（土）
4. 会場 群馬県/高崎アリーナ、ALSOK ぐんまアリーナ
5. 審判動向 8月17日（火）：研修会（ウェブミーティング）
6. 担当割当 8月19日（木）：大会1日目（2試合担当）
8月20日（金）：大会2日目
7. 報告

8月17日（火）

<研修会>

【講義①】

講師：宇田川 貴生氏（日本協会 審判委員長）

1. コロナ対応

- ネットにおける誹謗中傷が問題になった
- 事前の対応が大事
- 感染症対策の徹底、また体調不良、不安がある場合はキャンセルも
※連絡を徹底すること

2. インテグリティ

- テクニカルファウル（TF）に関して、感情的にならずにコールが必要
- 特に無観客であり、コーチの声がよく聞こえてしまうし、ネット配信もされる

3. 抗議の取り扱い

- 重大なトラブル防止のために…
 - ①審判員のレベルアップ
 - ②テーブルオフィシャル（TO）のレベルアップ
 - ③主催団体として取り組むべき対策
 - ④チーム（コーチ）として取り組むべき対策
- 審判の責任は重要
 - ①チーム、コーチからの問い合わせはクルーで対応
 - ②TOは仲間である。高圧的に対応せずリスペクトして連携（地元中学生が担当）
 - ③最終的な判断は、審判が行わなければならない

【講義②】

講師：加藤 暁生氏（本部）

2021 群馬全中のプレゲームカンファレンス（PGC）について

○基本事項

- 各個人が全中を成功させるという主体的な取り組み
- 正しい判定の裏付けは、ベーシックなメカの遂行やベーシックな Individual Officiating Techniques (IOT) から

○PGC について

- 普段行っている PGC に加え
 - ① 処置ミスゼロ
 - ② トラベリング
 - ③ Foot, Up, Land (FUL) ・ ショットの見極め
 - ④ Respect For the Game (含インテグリティ)

○OTO クルーとの連携

- 中学生が役員として実施するのでコミュニケーションを大切に
- ゲーム 20 分前に審判控室付近でのミーティングを実施

○マンツーマンルールについて

- ルールの確認
- マンツーマンコミッショナーとの連携
- マンツーマンペナルティが発生した際のクルーとしての対応
- 試合開始 10 分前に挨拶

○メディカルタイムアウトについて

- 熱中症および感染対策から実施
- 30 秒間で手指消毒と給水

【担当ゲーム】

8月19日（木）

男子予選リーグ B 勝山（四国）－菊陵（九州）

CC：若林 哲氏（埼玉） U1：栗田 賢吾 U2：佐藤 圭氏（群馬）

（ミーティング内容）

- PGC で確認した部分がオンザコートでよく生かされていた。
- 3人ともプライマリーをもっと意識する必要があった。チェックイン・チェックアウトの切り替えや笛を吹くタイミングに気を付ける。
- 両チームともにトラベリングが目立ち、3人が共通の認識で判定できていた。
- マンツーマンペナルティのケースにも落ち着いて対応できた。

男子予選リーグF 津軽（東北）－白新（北信越）

CC：草野 伸明氏（東京） U1：栗田 賢吾 U2：竹内 渡氏（高知）

（ミーティング内容）

- ・リードのローテーションをもっと積極的に行った方がよかった。
- ・ファウルコールをしてレポートの後の次の再開までをもっとスムーズにして、メリハリをつけたゲーム運営を心掛ける。
- ・ゲーム序盤のテンポセットから終盤にかけてはファウルの数が減っていき、クリアな展開でスムーズにゲームが展開されてよかった。

8月20日（金）

女子トーナメント1回戦 菊陵（九州）－豊野（関東）

CC：橋本 恵一氏（島根） U1：栗田 賢吾 U2：飯塚 典子氏（群馬）

（ミーティング内容）

- ・PGC の中でとにかくクルーワークを大切にしていこうという話があり、オンザコートでもクルー同士でコミュニケーションを積極的に行うことができたので、落ち着いて判定することができた。
- ・ファウルが起こった際、判定してレポートするだけでなく、ファウルを受けた選手の把握や次の再開方法の確認などのデリバリースキルを向上させることで処置ミスゼロにつなげられる。
- ・メディカルタイムアウトの時間を有効に利用し、気を付けるべきことの確認がクルーで丁寧に行うことができた。
- ・最後はブザービーターでゲームが決まる展開で4Q残り2分を切ったところでタイムアウト明けのスローインのケースが続き、気を付けなければならないことを多く抱える場面があったが、CC を中心にきちんと状況を整理して再開することで強い気持ちで落ち着いて臨め、トラブルなくゲームが終わり、選手がゲームを決めるよい試合となった。

※ 各ゲームとも担当クルーによる振り返りのミーティング

8. 大会を通して

今回、コロナウイルス感染拡大の難しい状況の中ではありますが、初めて全国中学校バスケットボール大会の舞台に立つことができたことは大変うれしく思います。貴重な経験をするとともに多くのことを学ぶことができました。このような機会を与えてくださった県協会、県審判グループの皆様に感謝申し上げます。

今までの審判活動の中で得たことに加え、今回、新たに得たことが多くありました。クルーでの協力はもちろん、TO やコーチとの関わり方についても話を聞くことができ、とても勉強になりました。また今大会では TO ミーティングをゲーム開始の20分前に行い、事前にコミュニケーションを図りゲームに臨むことができました。普段の県内の公式戦では難しい状況ではありますが、試合前の10分間の過ごし方を見直すきっかけになりました。

各都道府県審判員の皆さま、素晴らしい環境を準備してくださった群馬県中体連・群馬県バスケットボール協会の皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。